

## 賓陽塾とは

本日より第109号でお知らせした賓陽塾の研修事業が行われましたので、その概要についてお知らせします。

そもそも、この賓陽塾という名称ですが、知っている人にとっては（かなりの先輩になるのでは？）懐かしく響き、知らない人にとっては意味不明に聞こえる



インターネットの研修

るのではないのでしょうか。せっかくの機会ですので賓陽塾の由来について少々説明したいと思います。

前身である青森県立海洋学院の歴史は、昭和12年4月に開設された、青森県漁民修練道場賓陽塾に端を発します。修練の錬の一字をとっても非常に古めかしく感じますが、一方、当時の漁業後継者育成に対する県の意気込みと水産業界の期待が感じられます。余談ですが、当時不況にあった農漁村を立て直す村づくりの指導者を育成するため農林省の援助のもと設置されたそうです。



貝毒原因プランクトンの観察

さて、賓陽塾の名称の由来ですが、昔、中国の賓陽堂という所で中国全土から集まった青年が修業を積み、幾多の偉才を出したということから当時の県経済部長の中村元治氏が命名したと記録されています。

開設当初の賓陽塾という名称は昭和36年に青森県水産修練所と変更されるまで24年間使用されていました。この当時の名残か、八戸地方の地元の人たちは今でも親しみを込めて「道場」と呼んでおり、特に年配の人には「道場」で

なければ話が通じない時もあります。その後、平成10年に青森県立海洋学院と改称され、通算1,659名の修了者をもって平成19年3月に70年の歴史に幕を閉じました。

しかし、漁業後継者育成の場は現在においても必要であることから、今年度新規に漁業後継者育成対策事業を立ち上げて、時代に即応した研修の場が当研究所に設置されることになりました。このとき、多くの英才を輩出した栄誉ある初代の塾名を復活させ、その建学の志を引き継ぐべく前出納長長谷川義彦氏により「賓陽塾」と命名されました。

## 研修はどのように行われたか

新たにスタートした研修事業は、約2ヶ月半の漁業基礎知識や技術を学ぶ通常研修と漁業に必要な船舶や無線の免許取得、漁業実習を主体とした選択研修で構成され、主に海洋学院のような新規学卒者のみを対象とした一年間の全寮制の専門学校方式から若



2級小型船舶操縦士実技講習

手漁業従事者も参加しやすい短期研修方式に変更となりました。このため、担当職員も塾生募集、研修内容、開講式典など初めてづくしの仕事に右往左往しながら準備を進めました。

今年の場合は、新聞報道にもありましたとおり、塾生募集に苦勞し、当初の募集締め切り日で応募ゼロでしたが、水産局あがての協力により開講式直前に16名（後日1名追加）が集まり、なんとか開始することが出来ました。集まった塾生は、ほとんど全員ホタテ養殖業者の子弟で、賓陽塾へ通学可能な平内町を中心とした青森市後潟から野辺地町にかけての地域の人で占められました。

研修カリキュラムについても、当初は海洋学院のよ



刺網漁業実習

うな学校方式の体制を想定していましたが、新規学卒者が全くいない状況で受講者全員が漁業従事者であることから当初の予定を大幅に変更し、研修方法の検討や塾生への事

前アンケートを行い何を研修したいか意向調査をしたり、受講予定内容のメール送信を図るなど、いかに研修に参加しやすい体制を作るかということに苦心しました。

研修の状況は表のとおりです。座学は午後1時から2時までの間行われますが、皆さんの想像のとおり、食後のけだるい時間と重なり講義を受けながら猛烈な眠気との戦いがあったようです。受講生の中には毎日午前2時からの作業を終えてから出席する人もおり、無理のないことかも知れません。水産知識の講義のみではなく情報化時代に合わせたパソコン講座や普段目にするものない貝毒原因プランクトンの顕微鏡観察なども行われました。

実習では、ロープワークや漁網の補修、漁具作製、釣り、刺網、籠漁業実習を行いました。さすがに現役漁業者だけあって熱心かつ探求心が旺盛に感じました。



ロープワーク実習

カレイ・タイ一本釣り実習では、仕掛けは自ら工夫して作製し実際にその手応えを確かめてみる方法を取り、漁獲された魚は船上で調理して副食になったものもありました。

施設見学では、

種苗生産施設や荷捌き施設、養殖場、産地直売場などを当研究所のマイクロバスやジャンボタクシーを使用して視察に赴きました。県のほぼ中央に位置する地の利で太平洋、津軽海峡、日本海、内陸方面と幅広い地区の見学が出来ました。今年見学したなかでは、山・川・海の繋がりなのか？養殖漁業者の血が騒ぐのか？内水面養殖に興味を示した受講者が多く意外に感じました。

始まってしまえば、あっという間の2ヶ月半で7月31日に修了式を迎えましたが、修了要件である賓陽塾での開講日数のうち半数以上出席した塾生は6名でした。あとの塾生は次年度以降に開講する賓陽塾に参加して修了要件を満たせば晴れて修了出来るシステムとなっています。

選択研修のうち資格取得研修の2級小型船舶操縦士

免許講習は、9月3～7日（実質学科2日、実技1日、計3日間）に、賓陽塾のある地元茂浦で開催しましたが、賓陽塾生4名を含む10名が受講し、全員が免許を手に入れました。また、3級海上特殊無線技士講習は、県内の普及機関の協力により免許取得希望者を募ったところ最も多かった下北地区で開催することとし、9月25日にむつ市漁業協同組合の会議室で行いました。この講習では、賓陽塾生2名を含む38名が受講し、これも全員が免許を手に入れました。この資格講習は2つとも国家試験免除となる認定講習として開催されましたが、通常の方法に比べて資格取得しやすく、講習開催地も身近で行われるので、もし読者の中でこれらの資格が欲しい方がおられましたら選択研修を有効に活用して頂きたいと思えます。

漁業研修は、当初、主に新規学卒者を対象に定置網、イカ釣り底曳網漁業を予定していましたが、冒頭にも述べたとおり全員が漁業従事者でもあり、興味はあるが時間的余裕がとれないことなどから希望者は無く、今年実施されませんでした。本格的には来年度以降、実施することになるものと思われます。

#### おわりに

今年の賓陽塾の活動状況を紹介してきましたが、このように報告出来たことも漁業後継者育成の場が必要であるという意識を持った関係者の努力の賜と思えます。

青森県漁民修練道場賓陽塾から青森県立海洋学院まで続いた、漁業生産実習を通して汗と経験によって学ぶ体験教育・社会人養成から、新たな「賓陽塾」は、自己管理による自己研鑽の場として活用されていくのかな、という思いです。

最後に賓陽塾を実施するうえで、実習漁場の提供や実習船の管理では地元平内町漁業協同組合茂浦支所には特段のご協力を頂きましたことに感謝申し上げます。また、講義において本来の業務が多忙のところ講師をして頂いた関係者の方々、並びに視察先での丁寧な対応をしていただいた関係者の方々にあわせて感謝申し上げます。

現在、平成20年度の塾生募集準備を進めておりますので、賓陽塾の研修事業に興味を持たれた方は浅海環境部までお気軽にお問い合わせ下さい。

今後、時代にあわせ漁業後継者育成の方法は変化していくこととは思いますが、「研修の場を提供する側」、「研修を受ける側」、「社会（業界）」、の三方良しとなる形をめざして取り組んでいきたいと思えますのでよろしくお願い致します。



青森県栽培漁業振興協会視察